

(学校運営協議会・報告様式)

令和4年度 第5回白鳥中学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和4年12月1日(木) 18:30~19:30

2 場 所 会議室

3 協議内容 「特別支援教育・個別の支援について」

「不登校生徒を生まない取り組みについて」

- ・発達に課題のある子の割合は、学級の6.5%と言われている。支援ファイルを作成したということは、それだけ丁寧に対応しているとわかる。
- ・(高校では)「すずかっ子支援ファイル」にまで行きつけない生徒もいる。
→作るまでに保護者の方との話し合い、SCとの面談によりすずかっ子支援ファイルを作った生徒もいる。
- ・(新聞記事に載っていたが)支援の依頼のフォーマットが便利。チェックリストがあり、そのフォーマットを通じて、学校に的確に伝えることができるそう。
- ・保護者も色々悩むので、保護者との連携は欠かすことができないと考える。
- ・小学校との引継ぎが2月から始まるが、ほぼ毎日引き継ぎ支援会議が行われるほど、数が多く、年々増えている。
- ・特別な支援を持つ保護者は小学校に就学するときに、選択のことで非常に悩むことがある。子どもの現状によって、どちらが良いか、直接相談するために、しに小学校を訪問していた。
- ・校内の適応指導教室を開設するためには、校内の教師は余分に授業が増えているので先生の多忙化にはつながっているようには思うが、子どもたちにとっては非常に大事な取り組みのように思う。
- ・不登校については、9月が問題であり、9月より休む生徒が急増する傾向がある。1学期は頑張れるがその分反動が来ているように思う。その際に小学校での様子がどうであったか気になる。そういった意味でも小学校との情報共有が大切だと感じる。
- ・(新聞に記事によると)無気力・不安・保護者とのかかわり・非行・友人関係・生活リズムのみだれが割合を占めている。小学校の生徒を見ていると生活乱れが大きな要因ではないかと感じる。
- ・時間をかけてその子が決断したときに、進路選択できるところもある。自分の気持ちをうまく外に出せない生徒が多いので、大人がキャッチすることが難しくなっている。知らないうちに傷ついていることもあるので、居場所があることを伝えていくことが学校の役割だと感じる。